



九州大学  
グリーンアジア国際戦略プログラム  
副コーディネーター  
教授

## 林 潤一郎

平成24年10月に採択されたグリーンアジア国際戦略プログラムは、本年度末をもって文科省の支援を受ける7年間が終了します。私は本プログラムの申請を計画した平成24年3月頃（であったと思います）から同年のGWにかけてカリキュラムなどの設計、申請書作成に深く関わりました。GW中に不眠不休で原田先生、谷本先生と文書のやり取りをしたことを思い出します。申請を成功させるため、今でも、かなり野心的な、一方で、プログラムに配属された学生諸

君には大変厳しい（少々欲張りすぎの？）カリキュラム、単位認定の仕組みであったと思っております。しかし、関係教員との試行錯誤に付き合ってくれた学生諸君、とくに、第一期生の努力には今でも頭が下がる思いです。その第一期生から現在のプログラム在籍者諸君の全てに関係教員の一人としてお礼を申し上げます。本学では、本年に全学的な分野横断研究を展開するためのプラットフォームであるアジア・オセアニア研究教育機構が2年にわたる準備を経て立ち上がりました。同機構が全学の教員と学生を巻き込んだ異分野融合の基盤となることを願うばかりですが、グリーンアジア国際戦略プログラムのコンセプト、すなわち、「経済成長と省資源・グリーン化の両立に資する人材の育成」、そして、五つの力＝研究力・俯瞰力・実践力・国際力・牽引力は、アジア・オセアニア研究教育機構の研究教育コンセプトとしても繋げて欲しいとの想いを強く持っております。

上に書きましたように、当初は本プログラムに深く関わった自身でしたが、その後は、恥ずかしながら、運営の中心から徐々にfade outし、途中からは専ら研究室に配属となったプログラム学生の指導をしております。幸いにも素晴らしいアジアの学生に恵まれ、国際色豊かな研究室を運営することができました。この場を借りて運営に尽力してこられた教員、スタッフの皆様にお詫び申し上げるとともに、原田先生、谷本先生のリーダーシップに深く敬意を表す次第です。つい先日文科省による本プログラムの事後評価結果が確定しました。なぜS評価でないのか？という少々残念な思いと、A評価であったことへの安堵感が入り混じっております。本プログラムを支えてきた運営母体であるグリーンアジア国際リーダー教育センターは、炭素資源国際教育研究センターとエネルギー基盤国際教育研究センターの統合により1年前に発足したグリーンテクノロジー研究教育センター（GTセンター）との統合し、その活動を継続します。私はGTセンターの一協力教員として、炭素循環社会の実現に資する炭素資源変換・利用のシステムづくりを研究のライフワークとする所存ですが、このような発想はグリーンアジア国際戦略プログラム構想と運営に携わってこそ着想、発想できたことだと認識しています。改めて本プログラムの関係各位にお礼を申し上げますとともに、グリーンアジアプログラムと概念の発展性と持続性を信じ、研究教育を実践していきます。ありがとうございました。



九州大学  
グリーンアジア国際戦略プログラム  
副コーディネーター  
教授

## 水野 清義

### グリーンアジアプログラムへの期待

グリーンアジアプログラムによって、アジアを中心にいろいろな国から留学生が集まり、総合理工学府の国際化に大きく貢献しています。また、母国に帰った留学生たちは、日本で学んだことを礎として後進の学生たちの教育に寄与していくものと期待しています。日本で就職を希望する留学生も多く、その道が広く拓かれていくこと

も期待しています。日本人学生たちは単位数の多さやハイレベルな英語教育に悪戦苦闘しながらも最終的には良い就職先にたどり着いています。今後も優秀な学生が巣立っていくことでしょう。

世界では、国際化が進む一方、自国優先主義をはじめとした自己中心的な考え方がはびこっています。自分のアイデンティティを自覚すると同時に、他人のことも理解し受け入れることができる、真にグローバルな考え方をもち、周囲を先導していくことのできる人材が一人でも多く育っていくことを心から願っています。